

ドイツ文法について

小林 繁 吉*

Deutsche Grammatik im Anfängerkurs

Shigekichi KOBAYASHI*

Abstract

In diesem Aufsatz handelt es sich um sechs grammatische Punkte der deutschen Sprache für Anfängerkurse, an denen hauptsächlich Studentinnen und Studenten der japanischen Universität teilnehmen, um die deutsche Sprache zu lernen. Diese Punkte:

1. Deklination des attributiven Adjektivs
2. Konjugation im Präsens
3. Konjugation im Präteritum
4. Grundformen des Verbums
5. Konjugation im Konjunktiv II
6. Rahmenbau im Satz

Neue Tabellen der schon erwähnten grammatischen Punkte könnten für die Grundstufe des grammatischen Sprachkurses im Deutschen nützlich sein.

Keywords: Adjektiv, Deklination, Konjugation, Verb, Rahmenbau

はじめに

この論文では、初学者にとってわかりにくいと言われるドイツ語基礎文法、いわゆる初級ドイツ文法の文法項目を、はじめての学習者にも理解しやすくするための新しい考え方を取り入れて見直し、未習外国語としてのドイツ語の学習者に対して、少しでも学習しやすい簡便なドイツ文法を提示することを目指して文法項目の新しい考察を試みたものである。

これまで、名詞の格変化、動詞の現在人称変化、形容詞の格変化、前置詞の格支配、現在完了と過去、非人称動詞、人称代名詞の配語、manとes、定冠詞の指示性、冠詞の規定については、文法項目の見直し作業を行い、その考察結果を発表し、¹⁾ 実際の授業にも応用してきている

が、今回は、以下に挙げる六つの文法項目について論述していきたい。

1. 形容詞の格変化

形容詞については、拙論「ドイツ語の文法について——新しい形容詞の格変化表と動詞の現在人称変化表——」²⁾でも取り扱ったのであるが、今回は、形容詞の格変化全体に関する展望上の簡略化ということであったが、今回は、形容詞の格変化の実際の運用時の実用に即した実践的簡略化を行ったと言える。前回提示した〈新しい形容詞の格変化表〉の基本的考え方を踏まえ、その発展的应用としてできあがったのが、〈表1: 形容詞の格変化の新しい類型〉である。

まず、dieserなどの定冠詞類やmeinなどの不定冠詞類など、いわゆる冠詞や冠詞類が先行する〈先行規定型〉と形容詞の前に規定する冠詞や冠詞類のない〈非先行規定型〉に分類する。

平成19年12月17日受理

* 基礎教育研究センター・教授

表1

形容詞の格変化の新しい類型								
規定の種類	先行規定型				非先行規定型			
語尾の種類	1種固定語尾		2種変動語尾			3種変動語尾		
タイプ	冠詞(類)の語尾	形容詞の語尾	冠詞(類)の語尾	形容詞の語尾	形容詞の語尾	名詞の種類	形容詞の語尾	名詞の種類
タイプ1	-em -en	-en	-e -er -es (die)	-e -en			-er <1格> -en -em	男性名詞
タイプ2	das	-e	-φ	-er <男性> -es <中性>			-es <1・4格> -en -em	中性名詞
タイプ3	des	-en			-e <1・4格> -er	女性名詞	-e <1・4格> -er -en	名詞の複数

その規定詞(冠詞・冠詞類)の語尾の種類によって、〈タイプ1: -em, -en〉は、具体例として、diesem guten Mann, diesen guten Mannのように、-em, -enという語尾を持つ規定詞のつぎに来る形容詞の格変化語尾は、必ず-en一種になるという〈一種固定語尾〉を示している。das dicke Buch, des alten Wagensのようにdas -e, des -enも〈一種固定語尾〉のケースである。同様に、規定詞語尾 -e, -er, -es または die のつぎに来る形容詞の格変化語尾は必ず-e か-enの2種になり、これを〈二種変動語尾〉とした。-φの印は、mein neuer Hut や dein altes Auto のmein や dein を指し、いわゆる混合変化で出現する男性単数1格、中性単数1・4格の格変化を示している。〈非先行規定型〉のケースは、逆に女性名詞単数は -e か -er という〈二種変動語尾〉にしかないことを表していて、warme Milch, warmer Milch が該当する。非先行規定型の場合は、先行規定型と考え方を逆にして、名詞単数の性や複数から形容詞の格変化語尾のタイプを探るのである。これまで述べて来たように考えるので、〈非先行規定型〉〈三種変動語尾〉の場合は、男性単数の名詞より、-er(1格)、-en, -em 三種の格変化語尾を、中性単数の名詞よ

り、-es(1・4格)、-en, -emの語尾を探し、名詞の複数より、-e(1・4格)、-er, -enの語尾を探り当てることになる。複数形の1例を挙げると、gute Männer, guter Männer, guten Männern がそれである。

以上の考え方を〈形容詞の格変化の新しい類型〉として表1にまとめたので、この表を活用することによって、いわゆる先行規定詞(定冠詞、定冠詞類、不定冠詞、不定冠詞類)つきの形容詞の格変化と、規定詞の先行しない形容詞の格変化の全体像を、より簡略化してとらえることができるようになった。

2. 動詞の現在人称変化

まず、動詞を不定詞の形、不定詞語尾の形態によって、-en型と-n型の二種に分類する。³⁾ 現在人称変化(厳密には、直説法、能動態、現在人称変化)に関して言えば、この時点で、不定詞が-enで終わる-en型動詞は、〈すべて複数形は現在人称変化において規則的に変化する。〉ということになる。〈表2: 動詞の規則的現在人称変化〉は、この-en型動詞の現在人称変化語尾を表示している。具体例を挙げると、表

表 2

動 詞 の 規 則 的 現 在 人 称 変 化 語 尾				
不定詞 の語幹 の条件	① 語幹が②③の条件以外で 終わる動詞	② 語幹が -s, -ss, -ß, -tz, -z, -x に終わる動詞	③ 語幹が -d, -t に終わる動詞, または, 語幹が -m, -n に終わ り, その前が h, l, r 以外の子音 になっている動詞	①②③の 3 類型
ich	-e			ich
du	-st	-t	-est	du
er	-t		-et	er
wir	-en			wir
ihr	-t		-et	ihr
sie	-en			sie
人称 代名詞	②③以外の条件で 終わる動詞	語幹が -s, -ss, -ß, -tz, -z, -x に終わる動詞	語幹が -d, -t などで終わる動詞	人称 代名詞

2 の① kommen ② reisen ③ reden は下記の
ような変化をする。

ihr kommt reist redet
sie kommen reisen reden

kommen reisen reden
ich komme reise rede
du kommst reist redest
er kommt reist redet
wir kommen reisen reden

① kommen ② reisen ③ reden などの動詞
は, 単数形でも語幹(幹母音)の変わらない, い
わゆる現在人称変化の規則的な動詞である。
-en 型動詞の現在人称変化の不規則的な動詞
については後述するが, -n 型動詞の場合は, <表

表 3

不 定 詞 が -n 型 動 詞 の 現 在 人 称 変 化							
人称 代名詞	sein	人称変化 語 尾	tun	語幹と語尾	wandern	handeln	人称 代名詞
ich	bin	-e	tue	アクセントのない 幹母音の脱落 -e	wand(e)re	handle	ich
du	bist	-st	tust	-st	wanderst	handelst	du
er	ist	-t	tut	-t	wandert	handelt	er
wir	sind	-n	tun	-n	wandern	handeln	wir
ihr	seid	-t	tut	-t	wandert	handelt	ihr
sie	sind	-n	tun	-n	wandern	handeln	sie
特別な 動詞	1 語のみ	1 語のみ		不定詞語尾の特徴	-ern 動詞	-eln 動詞	-n 型動 詞記述
現在人 称変化	現在人称変化の 不規則な動詞	現在人称変化の 規則的な動詞		1 人称単数の語幹 について	1 人称単数のみ語幹が 変わることがある。	1 人称単数のみ 語幹が変わる。	幹母音 の脱落

表4

現在人称変化の不規則な動詞の分類表											
三分類 ①②③	① a → ä 型			② e → i(e) 型				③ その他 ①② 以外の型			大分類
下位 区分	ā → ā 型／ă → ă 型			ě → ě 型			ē → ě 型	特殊な もの	au → äu 型	2 形ある もの	中分類
語幹の 末尾	①：②③ 以外	② -s, -ss, -ß	③ -t	①：②③ 以外	②： -s, -ss, -z	③ -t	①：②③ 以外	1 語のみ のもの	laufen saufen	backen melken	小分類
du	fährst fällst	bläst lässt	rätst hältst	sprichst hilfst	isst schmilzt	giltst schiltst	siehst empfiehlst	hast nimmst trittst gibst liest lischst lädst stößt wirst	läufst säufst	bäckst (backst) milktst (melkst)	du
er	fährt fällt	bläst lässt	rät hält	spricht hilft	isst schmilzt	gilt schilt	sieht empfieht	hat nimmt trittt gibt liest lischst lädt stößt wird	läuft säuft	bäckt (backt) milkt (melkt)	er
主語	a → ä 型			e → i(e) 型				その他の型			du, er
〈その他の型〉グループの枠外表示動詞：gebären, geschehen								du gebierst (gebärst) sie gebiert (gebärt) / es geschieht			

3: 不定詞が -n 型動詞の現在人称変化〉のように、通常の現在人称変化の文法説明では、例えば、簡単に〈現在人称変化の規則的な動詞の語幹（幹母音）は変化しない。〉と言い切れない。ドイツ語学習者に対して、学習初期の段階で、まず、-en 型動詞と -n 型動詞に大別し、-en 型動詞においては、〈現在人称変化の規則的な動詞はすべて語幹が変わらない。〉という文法説明をすることが重要なのである。-en 型動詞と -n 型動詞に分けることによって、逆に -n 型動詞の特徴が浮き彫りになる。-n 型動詞においては、現在人称変化の不規則的な動詞は sein 一語のみであり、また、不定詞語幹が変わらない、-n 型動詞で規則的な現在人称変化をする典型的動詞は tun 一語のみなのである。この sein と tun を一語のみの特殊動詞と考えると、-n 型動詞の大部分を占める wandern や handeln などの、いわゆる -ern 動詞や -eln 動詞は、一人称単数形のみ、アクセントのない幹母音の脱落のある——幹母音が変化していないので、通常分類では規則動詞の部類に入れている——-n 型動詞の特徴が明確になり、一人称単数形のに注

意が集中することにもなる。文法説明が単純化されたと言える。

最後に、基礎文法、学校文法において、文法上の分類が明確になっていない、〈表4: 現在人称変化の不規則な動詞の分類表〉について論じてみたい。通常、現在人称変化の不規則な動詞の分類を表4 ① a → ä 型 ② e → i(e) 型の大枠二つに分けるのはほとんど問題ない。この論文では、最初に、動詞を -en 型と -n 型に分けたので、-en 型動詞の現在人称変化形は〈すべて複数形は規則的——つまり、語幹（幹母音）が変わらない——である〉ということが明示されている。〈表5: 話法の助動詞・wissen の現在人称変化〉に表示している話法の助動詞 dürfen, können, mögen, müssen, sollen, wollen, そして wissen の7語もそうである。特に sollen は唯一語幹（幹母音）が変わらない規則的変化をしている動詞なので、分類上の扱いでは、別分類になるはずであるが、ここでは、理論上、1人称・3人称の単数形で語尾のない形（ゼロ語尾の語幹）をしているので、ゼロ語尾の語幹を単数形で持つものは、現在人称変化の不規則的な動

表 5

話法の助動詞・wissenの現在人称変化											
主語の 人称代 名詞	タイプ1 語幹（幹母音）が変化					タイプ2 語幹（幹母音）が変化			タイプ3 語幹無変化		主語の 人称代 名詞
	不定詞	dürfen	können	mögen	wollen	不定詞	müssen	wissen	不定詞	sollen	
ich	—	darf	kann	mag	will	—	muss	weiß	—	soll	ich
du	—st	darst	kannst	magst	willst	—t	musst	weißst	—st	sollst	du
er	—	darf	kann	mag	will	—	muss	weiß	—	soll	er
分類	タイプ1					タイプ2			タイプ3		タイプ

詞に入れておくということで分類上の整合性を確保することにする。

さて、単数の二人称・三人称のみで幹母音や（幹母音を含む）語幹の変わる動詞の分類については、通常の文法書の分類と同様に、① a → ä 型 ② e → i(e) 型 ③ その他①②以外の型の三つに分ける。① a → ä 型をさらに三つに分け、a(長音) → ä(長音)型、a(短音) → ä(短音)型であることは共通しているが、

① fahren 型：fällen

du fährst fällst
er fährt fällt

du —st
er —t

の語尾をとるもの、

② lassen 型：bläsen

du bläst lässt
er bläst lässt

du —t
er —t

の語尾をとるもの、

③ halten 型：räten

du rätst hältst
er rät hält

du —st

er — （語尾なし）

の語尾をとるものとする。

② e → i(e) 型は、さらに、e(短音) → i(短音) 型と e(長音) → ie(長音) 型に下位区分し、e → i 型は発音上の短音を表し、e → ie 型は発音上の長音を表わすことが共通である。

① sprechen 型は

du sprichst
er spricht

du —st
er —t

の人称変化語尾をとるもの、

② essen 型は

du isst
er isst

du —t
er —t

の語尾をとるもの、

③ gelten 型は

du giltst
er gilt

du -st
er - (語尾なし)

の三つに分類される。

e → i(e)型に関しては、② e → ie 型の -s で終わる動詞が lesen 一語のみであるため、大分類の③に入れてある。また、-t で終わる動詞はないので、

① sehen 型

du siehst
er sieht

du -st
er -t

の1タイプのみとなる。

以上が① a → ä 型と② e → i(e)型であり、この①②以外のその他の現在人称変化の不規則な動詞はすべて③に分類上入ることになる。

③ その他に表示した9つの動詞は、1語のみの特殊な変化をするものである。

haben は語幹 hāb が hǎ に変化
nehmen は nehm が nimm (幹母音が長音から短音) に変化
treten は tret が tritt (幹母音が長音から短音) に変化
geben は gēb が gīb (e → i 型なのに幹母音が長音から長音) に変化
lesen は les が lies に変化。e → ie 型で語幹が -s で終わっているのは1語のみ
laden は du lädst/er lädt と変化。(下線部が特殊な変化) a → ä 型で語幹が -d で終わっているのは1語のみ
werden は du wirst/er wird と変化。語幹が werd → wir (長音から短音) と変化していると考えても三人称単数形が -d で終わってい

るのは特殊な変化

löschen は löscht が lisch (ö → i は特殊) に変化

stoßen は stoß が stöß (o → ö は特殊) に変化

である。

また、勿論、au → äu 型の2語 laufen と saufen も③に入る。backen と melken は、現在人称変化が不規則な場合と規則的な場合の二様あるということで③とした。その他の③の動詞としては、梓外表示動詞の gebären, geschehen がある。gebären は du gebierst (gebärst)/sie gebiert (gebärt) と変化し、backen, melken のように2形あるほかに、三人称単数形の主語は er ではなく sie であることが特殊であり、geschehen は es のみ主語となる特殊動詞であり、⁴⁾〈その他の型〉グループに属するものとした。⁵⁾

以上論じてきたことを総合したものが、動詞の現在人称変化形全体を簡略化した表であり、それは表2、表3、表4、表5として提示されている。

3. 動詞の過去人称変化

過去人称変化は現在人称変化と比べると単純で、三基本形の規則的な動詞(いわゆる弱変化動詞)も、三基本形の不規則的な動詞(強変化動詞・混合変化動詞)も、基本的に、過去基本形の語尾が -e で終わるものか、-e で終わらないものかに大別される。-e で終わるものは、とにかく、〈表6: 過去人称変化表〉の①のように変化する。以下に例示する。

ich	lernte	hatte
du	lernstest	hattest
er	lernte	hatte
wir	lernten	hatten
ihr	lerntet	hattet
sie	lernten	hatten

表 6

過去人称変化表					
過去基本形の語尾	① -e	② ①③④以外の語尾で終わるもの	③ -s, -ß, -sch, -z	④ -d, -t	過去基本形の語尾
ich	—				ich
du	-st		-est	-(e)st	du
er	—				er
wir	-n	-en			wir
ihr	-t			-et	ihr
sie	-n	-en			sie
人称代名詞主語	-e	①③④以外の語尾	-s, -ß, -sch, -z	-d, -t	人称代名詞主語

また、過去基本形の語尾が -d, -t で終わる ④ の動詞には, finden や gelten などがあり, -s, -ß, -sch, -z で終わる ③ の動詞の例としては, essen や lesen がある。①③④ 以外の過去基本形の語尾で終わる ② の動詞の例としては, sein や gehen がある。このように過去基本形の語尾の分類によって過去人称変化形表示の簡略化がなされている。

4. 動詞の三基本形

ここで取りあげるのは, -en 型動詞の三基本形であり, -n 型動詞の三基本形は, sein と tun をのぞくと,⁶⁾ -ern 動詞と -eln 動詞であり, 基本的に,

wandern	wanderte	gewandert
-n	-te	ge-t
handeln	handelte	gehandelt
-n	-te	ge-t

という形を取る。-n 型動詞の三基本形は〈表 7: 不定詞が -en で終わる -en 型動詞の三基本形の表〉には表示していない。弱変化動詞(規則変化動詞)は,

-en	-te	ge-t
-----	-----	------

であり, 不定詞の語幹が変化していないので,

Aen	Ate	geAt
-----	-----	------

のように表示した。例として, lernen, reden が表示してある。

lern-en	lern-te	ge-lern-t
red-en	red-ete	ge-red-et

混合変化動詞は, 弱変化(規則的变化)の形もある senden, wenden を例外としておき,

Aen	Bte	geBt
bring-en	brach-te	ge-brach-t

とした。

話法の助動詞は, 弱変化(規則的变化)形をもつ, sollen, wollen を例外とし,

Aen	Bte	geBt	Aen
könn-en	konn-te	ge-konn-t	könn-en

として, gekonnt と können の二形を過去分詞とした。

強変化動詞は一般的分類法の三タイプ

A-B-A		
fahr-en	fuhr	ge-fahr-en

表 7

不定詞が -en で終わる -en 型動詞の三基本形の表							
三基本形の 一般的形式	—en 不定詞形	—te 過去形	— 過去形	ge—t 過去分詞形	ge—en 過去分詞形	—en 過去分詞形	動詞の例示
弱変化 (規則) 動詞	Aen	Ate Aete		geAt geAet			lernen reden
混合変化動詞 話法の助動詞	Aen	Bte		geBt		(Aen)	bringen können
強変化動詞 A-B-A	Aen		B		geAen		fahren lesen
強変化動詞 A-B-B	Aen		B		geBen		fliegen schreiben
強変化動詞 A-B-C	Aen		B		geCen		gehen nehmen
動詞の種類	—en 不定詞形	—te 過去形	— 過去形	ge—t 過去分詞形	ge—en 過去分詞形	—en 過去分詞形	枠外表示動詞 4 例
混合変化動詞 の例外 話法の助動詞 の例外	A-B-B (A-A-A) : senden—sandte (sendete)—gesandt (gesendet) A-B-B (A-A-A) : wenden—wandte (wendete)—gewandt (gewendet) A-A-A/A : sollen—sollte—gesollt/sollen A-A-A/A : wollen—wollte—gewollt/wollen						senden wenden sollen wollen

A-B-B

fliegen

flog

gefliegen

A-B-C

gehen

ging

gegangen

とした。

以上のようにして、〈表 7: 不定詞が -en で終わる -en 型動詞の三基本形の表〉で -en 型動詞の三基本形の概要を提示することができた。

5. 動詞の接続法第 II 式人称変化

接続法第 I 式の現在人称変化は、-en 型動詞では、すべて不定詞の語幹に -e, -est, -e, -en, -et, -en の語尾をつけ、

ich	—e	habe
du	—est	habest
er	—e	habe
wir	—en	haben
ihr	—et	habet
sie	—en	haben

のように変化し、例外はない。⁷⁾

接続法第 II 式現在人称変化においては、〈表 8: 接続法第 II 式現在人称変化表〉のように、まず二つの分類基準、過去基本形の語尾が e であるか、e でないか、あるいは、ウムラウトするか、しないかである。⁸⁾ 過去基本形の語尾が e であり、ウムラウトしないタイプは、いわゆる弱変化 (規則変化) 動詞で、例示した lernen の変化のように、直説法、能動態の過去人称変化形と同一になる。⁹⁾ 語尾が e でウムラウトするのは、haben に代表される動詞であり、語尾が e 以外でウムラウトしないのは fangen に代表される動詞である。また、語尾が e でなく、ウムラウトする動詞の例としては sein がある。¹⁰⁾ 以上 4 つのタイプに接続法第 II 式現在人称変化形は分類される。

-en 型動詞においては、接続法第 I 式が例外がなく単純な現在人称変化をするのに対して、接続法第 II 式現在人称変化は、やや複雑な様相を呈しているが、この表によってより簡略化された。

表 8

接 続 法 第 II 式 現 在 人 称 変 化 表								
過去基本形の語尾 ウムラウトの有無	語尾 e である。 ウムラウトしない。		語尾 e である。 ウムラウトする。		語尾 e ではない。 ウムラウトしない。 ウムラウトする。		人称代名詞主語	
ich	—	lernte	—	hätte	—e	finge	— wäre	ich
du	—st	lerntest	—st	hättest	—est	fingest	—est wärest	du
er	—	lernte	—	hätte	—e	finge	—e wäre	er
wir	—n	lernten	—n	hätten	—en	fingen	—en wären	wir
ihr	—t	lerntet	—t	hättet	—et	finget	—et wäret	ihr
sie	—n	lernten	—n	hätten	—en	fingen	—en wären	sie
人称代名詞主語	語尾 e である。 ウムラウトしない。		語尾 e である。 ウムラウトする。		語尾 e ではない。 ウムラウトしない。 ウムラウトする。		過去基本形の語尾 ウムラウトの有無	

6. ドイツ語文章の枠構造について

ドイツ語文における枠構造は,¹¹⁾ 一般的に,
〔1〕主文の枠構造と〔2〕副文の枠構造に分類されている。¹²⁾ さらに,〔1〕主文の枠構造は以下に述べる(1)~(5)に場合分けされる。〔2〕の副文の枠構造は(1)~(3)に分類される。

主文の枠構造と副文の枠構造は,Duden をはじめとする文法書に記述されている一般的文法形態と言えるが,¹³⁾ ここで,〔3〕〔4〕〔5〕〔7〕の,やや特殊な分類法を提示してみたい。

〔1〕主文(独立文)の枠構造

(1) 分離動詞:

Wann stehen Sie morgen auf?

(2) 話法の助動詞:

Ich kann Tennis spielen.

(3) 未来形:

Ich werde morgen nach Tokio fahren.

(4) 現在完了:¹⁴⁾

Hast du den Film gesehen?

(5) 受動態:¹⁵⁾

Der Schüler wird von dem Lehrer gelobt.

〔2〕副文(従属文)の枠構造

(1) 従属の接続詞:

..., dass er krank ist.

..., weil es stark regnet.

(2) 疑問詞(疑問代名詞・疑問副詞):

Ich weiß nicht, wo er jetzt wohnt.

(3) 関係詞(関係代名詞・関係副詞):

...das Buch, das ich gestern gekauft habe.

〔3〕みなし枠構造は,通常は枠構造とみなされないが,枠構造と考えると,熟語表現が理解しやすくなる。動詞との結び付きの強いみなし枠構造を設定してみた。

Ich mache heute einen Spaziergang.

Ich fahre heute Auto.

Ich gehe heute Abend ins Kino.

〔4〕ゼロ枠構造は,本来は決して枠構造とみなせない,枠構造が成り立っていない文を言う。枠構造が存在していないという意味でゼロ枠構造と呼ぶことにする。

ich bin Student.

Wie geht es Ihnen?

Ich komme aus Japan.

〔5〕 二重[・]杵構造は、複文中に出現することがある二重の杵構造のことを言う。下記の例文の通りである。¹⁶⁾

[Wer] nicht [arbeitet], [soll] auch nicht [essen].

Heute Abend, [wenn] er [zurückkommt], [werde] ich ihn [anrufen].

〔6〕 杵構造の例外：通常の文法書にもある例外表示で、zu 不定詞，比較級 als を伴う場合などがある。例文は以下の通りである。

Es [fing] bald [an] zu regnen.

Ich [bin] heute früher nach Hause [gekommen] als gestern.

〔7〕 その他[・]の杵構造は、複文内においていずれも主文がゼロ杵構造になっている場合で、

〔1〕 従属の接続詞のない複文のケース：通常の分類では、主文の杵構造と 副文の杵構造のケースしかないので、[Hätte] ich sie damals [gehairtet] をどのように考えればいいのか。[Hätte] ich sie damals [gehairtet] は、やはり、仮の杵構造と考えるとよい。〔3〕のみなし杵構造の一種と考えるのである。したがって杵構造は成立する。

[Hätte] ich sie damals [gehairtet], wäre ich jetzt glücklich. (← [Wenn] ich sie damals gehairtet [hätte], wäre ich jetzt glücklich.)

〔2〕 als ob による杵構造：als ob の ob の省略のよって杵構造が成立しなくなる。als ob の ob を省略した場合の als wäre の文法的意味を考えてしまう。als wäre sie eine Deutsche のケースでは、形[・]の上で杵構造が成立していないので、〔4〕のゼロ杵構造と考えるとよい。あくまで杵構造という形式（形態）にこだわってみたい。したがって、als wäre では杵構造は成立しない。

Sie spricht so gut Deutsch, [als ob] sie eine Deutsche [wäre]. (→ Sie spricht so gut Deutsch, als wäre sie eine Deutsche.)

〔3〕 副文の杵構造を構成する動詞群内の動詞の配置によって、杵構造を構成する要素をどのように考えるかを問題にする場合：副文の杵構造を構成する動詞群全体を杵構造の一方の杵と考えるか、動詞群のうちの一語をそれと考えるか、定動詞が最後に位置していないために生じてくる問題である。取り敢えずは、どちらの考えをとってもよいと思う。三語からなる動詞群を一まとまりと考えてもいいし、hat を杵構造の一方のことばとしてもよいということである。また、können 一語を杵構造を構成する一方としてもよい。いずれにしろ、杵構造自体が存するのには変わりがないからである。

しかし、どちらかに決定しろということであれば、[dass] er die Prüfung [hat] [bestehen] [können] に関しては、[hat] [bestehen] [können] の動詞群で杵構造を形作っているという考えの方をとりたい。その方が学習者には理解しやすいと思うからである。

ドイツ語学習は、ある意味、〈杵構造で始まって杵構造で終わる〉とも言えるので、可能な限りの文に杵構造という考え方を適用してみた。ドイツ語学習が初級基礎段階から中級応用段階に向かっていく際の、杵構造という考え方が文法的に重要な橋渡しの役割を果たす一助となれば幸いである。

Wir freuen uns sehr, [dass] er die Prüfung [hat] [bestehen] [können].

ま と め

以上論述してきたことを総括すると以下のようになる。

1. 形容詞の格変化

- (1) 先行規定型と非先行規定型
- (2) 1 種固定語尾と 2・3 種変動語尾

表 1: 形容詞の格変化の新しい類型

2. 動詞の現在人称変化

- (1) -en 型動詞と -n 型動詞
- (2) 現在人称変化の規則的な動詞
- (3) 現在人称変化の不規則な動詞

表 2: 動詞の規則的現在人称変化

表 3: 不定詞が -n 型動詞の現在人称変化

表 4: 現在人称変化の不規則な動詞の分類表

表 5: 話法の助動詞・wissen の現在人称変化

3. 動詞の過去人称変化

- (1) 過去基本形語尾 -e 型動詞
- (2) 過去基本形語尾非 -e 型動詞

表 6: 過去人称変化表

4. 動詞の三基本形

- (1) -n 型動詞の三基本形
- (2) -en 型動詞の三基本形

表 7: 不定詞が -en で終わる -en 型動詞の三基本形の表

5. 動詞の接続法第 II 式人称変化

- (1) 過去基本形の語尾
- (2) ウムラウトの有無

表 8: 接続法第 II 式現在人称変化表

6. 枠構造について

- (1) 主文の枠構造と副文の枠構造
- (2) みなし枠構造とゼロ枠構造
- (3) 二重枠構造と枠構造の例外・その他

以上、文法項目再提示の可能性を追求して得られた検討結果である表を効果的に活用するこ

とによって、初級基礎文法の授業をより改善していく方向性を探り当てることができたと思っている。今後もこのような文法項目簡略化を含む検討、考察を間断なくつづけていくことが有用かつ必要なことと考えている。

注

- 1) 拙論参照。
- 2) 小林 (2002) S. 252ff.
- 3) ここでは、初級基礎段階から中級応用段階までの動詞の語彙を想定している。
- 4) 複数の sie geschehen も存在するが、ここでは単数形のみを対象にしている。
- 5) bersten (du birst, er birst) のように特殊な変化をするものは、3) の理由で記載していない。
- 6) -n 型動詞の三基本形が不規則なものは、sein と tun の二語のみである。

sein war gewesen:

sei	n
An	

war
B

ge	wes	en
	ge	Cen

tun tat getan:

tu	n
An	

tat
B

ge	ta	n
	ge	Cn

となる。

- 7) -n 型動詞は下記のようになり、少し複雑である。sein も tun も一語のみの特殊変化である。

	sein	tun	wandern	handeln
ich	sei	tue	wandre	handle
du	sei(e)st	tust	wanderst	handelst
er	sei	tue	wandre	handle
wir	seien	tun	wandern	handeln
ihr	seiet	tut	wandert	handelt
sie	seien	tun	wandern	handeln

- 8) kennen, nennen などの過去基本形は kannte, nannte であるが、接続法第 II 式現在の基本形は kennte, nennte であり、接続法第 II 式現在人称変化表の例外となる。
- 9) senden, wenden の過去基本形は sandte, wandte であるが、接続法第 II 式現在の基本形は sendete, wendete であり、接続法第 II 式現在人称変化表の例外となる。
- 10) helfen, sterben などの過去基本形は half, starb であるが、接続法第 II 式現在の基本形は hülfe, stürbe であり、接続法第 II 式現在人称変化表の例外となる。
- 11) 冠飾句など句における枠構造は、ここでは考察の対象としていない。
- 12) Duden (1984) S. 717ff.
- 13) Duden (1984) では、Rahmenbau でなく、

- Satzklammer を用いている。
- 14) 現在完了のほか、過去完了、未来完了も考察の対象になる。
 - 15) 受動態の現在のほか、受動態の過去、未来、現在完了、過去完了、そして未来完了における枠構造も考慮しなければならない。
 - 16) 二重枠構造は、より複雑な文においては、三重枠構造、四重枠構造といった多重枠構造になる可能性を持っている。

参考文献

- Ágel, Vilmos: Valenztheorie. Tübingen 2000.
- Duden: Grammatik der deutschen Gegenwartssprache. Mannheim 1984.
- Engel, Ulrich: Deutsche Grammatik. Heidelberg 1996.
- Helbig, G./Buscha, J.: Deutsche Grammatik. Ein Handbuch für den Ausländerunterricht. Leipzig 1975.
- Liebsch, H./Döring, H.: Deutsche Sprache. Handbuch für den Sprachgebrauch. Leipzig 1976.
- Schulz, D./Griesbach, H.: Grammatik der deutschen Sprache. München 1972.
- Schulz, H./Sundermeyer W.: Deutsche Sprachlehre für Ausländer. München 1965.
- Schwarz, H.-Gerhard: Deutsche Grammatik. Köln 1985.
- Werke, Klaus: Deutsche Syntax funktional. Tübingen 2005.
- E. ヘンツェル・H. ヴァイト著／西本美彦・高田博行・川崎靖訳：ハンドブック・現代ドイツ文法の解説（同学社）1995.
- ヴィルヘルム K. ユーデ著／稲木勝彦訳：ユーデ・基本ドイツ文法（三修社）1966.
- 小林繁吉：新しい「名詞の格変化」表（言語人文学会誌）1998.
- 小林繁吉：ドイツ語の文法について——新しい形容詞の格変化表と動詞の現在人称変化表——（八戸工業大学紀要第21巻）2002.
- 小林繁吉：ドイツ文法概念について（八戸工業大学紀要第24巻）2005.
- 在間 進：〔改訂版〕詳解ドイツ文法（大修館書店）2006.
- 相良守峯：ドイツ語学概論（研究社）1950.
- 相良守峯：ドイツ文法（岩波書店）1971.
- 桜井和市：改訂ドイツ広文典（第三書房）1995.
- 佐藤通次：ドイツ広文典（白水社）1970.
- 関口存男：関口・初等ドイツ語講座〈上巻〉（三修社）1976.
- 関口存男：関口・初等ドイツ語講座〈中巻〉（三修社）1982.
- 関口存男：関口・初等ドイツ語講座〈下巻〉（三修社）1982.
- 関口存男：関口・新ドイツ語大講座（三修社）1974.
- 武田昌一・吉田次郎：現代ドイツ文法（白水社）1969.
- 田中康一：新講ドイツ文典（南江堂）1956.
- 常木 実：わかりやすいドイツ語入門（朝日出版社）1977.
- 日本独文学会ドイツ語学委員会：ドイツ語教育の基本的諸問題 1978.
- 中島悠爾・平尾浩三・朝倉 巧：改訂版必携ドイツ文法総まとめ（白水社）2003.
- 中山 豊：中級ドイツ文法（白水社）2007.
- 橋本文夫：詳解ドイツ文法（三修社）1971.
- 三好助三郎：三好新独英比較文法（郁文堂）1977.
- 山川丈平：やさしいドイツ語入門（郁文堂）1979.
- 義則孝夫・吉田正勝：大学最新ドイツ語教本（三修社）1967.